

絵本から読み物へのステップアップ

実施日 令和6年度

対象 小学校4年

目的・ねらい

- 絵本から読み物へステップアップのきっかけをつくる。
- 読み物が苦手な児童に興味を持たせる。
- 絵の少ない物語を耳で聞きながら自由に想像する楽しみを感じる。

学校図書館活用のポイント

- 絵本から読み物への移行をスムーズに行えるように本の紹介をする。

当日までに行うこと

- ☐ 読み聞かせに使う本の下読みを行う。
- ☐ 5分間でどのくらい読めるか確認する。(どこで読み聞かせを終わるか決めておく。)

実践内容	物品	留意点
〈提案〉 教員から学校司書に、絵本や迷路などの本しか借りない児童に読み物(文字の本)にも興味を持ってほしいという相談があった。そこで、学校司書が読み物の初めの部分を読み聞かせることで興味を持つきっかけづくりができるのではないかという提案を行った。		
〈相談〉 学校司書が初めの部分の読み聞かせを行った後、話の続きが知りたい児童へのフォローとして、次の方法を用意した。どの方法をとるかは、その都度教員と相談することとした。 ● 図書の時間に余裕があれば、学校司書が教員に許可を得たうえで読み聞かせの時間を延長する。 ● 学校司書が次の図書の時間に続きを読む。 ● 教員が教室での隙間時間に、続きの読み聞かせを行う。 ● 学校図書館で児童が読めるように、コーナー展示する。 など		
〈準備〉 学校司書が、読み聞かせをする学級の状況に合わせた本を何冊か準備した。		

〈実践〉 ① 学校司書が児童に、長いお話なので5分だけ読み聞かせをすると伝えた。 ② 絵本の読み聞かせのように本文は見せないが、挿絵がある場合は見せながら、学校司書が5分間の読み聞かせをした。(5分計る必要はなく、きりの良いところまで読む。) ③ 読み聞かせの続きをどうするか、児童に伝えた。 例 「続きは次の図書の時間に読みます。」など		5分間の読み聞かせ中に児童の集中力が切れてしまったときは、早めに切り上げてもう1冊読むなどの工夫をする。
〈結果／児童生徒・教職員の反応〉 ● 絵本のように絵を見せながらの読み聞かせではないため、児童それぞれが物語の場面を思い浮かべながら想像して楽しんだ。 ● 学校司書が、物語の続きがどうなるのか気になる児童の反応に共感することで、児童の読みたいという気持ちがさらに膨らんだ。 ● 読み聞かせに使用した本を借りる児童がいた。		物語を聞いて想像を膨らませることが難しい児童が多い場合は、分かりやすい物語から始めるなどの積み重ねが必要となる。